

『三ヶ村の池と大太鼓』

八田の奥山に、「三ヶ村の池」といって、二つの大池が、二段になっている。「三ヶ村」というのは、「八田と国下、中挟」をいう。「三ヶ村」は、この池の水で、それぞれの田んぼの用水をまかなっていた。この池は、



八田の奥山というが、本当は、多根コロサと江曾、八田の境にある。

昔々、三ヶ村で、「ここに、池を作ろう。」という話が持ち上がった。江曾でも、「同じところに、池を作ろう。」という話が出ていた。そこで、三ヶ村の代表の人たちが、江曾村に、協力を掛け合った。江曾では、三ヶ村ほど、用水に不足がなかったけれど、二つ返事に、承知ともいわず、江曾の衆は、一計を案じた。

その頃、八田の寺に、自慢の大太鼓があった。その一つを、江曾の寺へ譲って欲しいと申し入れた。そこで、三ヶ村では、大方が、八田の寺の門徒であったので、相談の果てに、思い切って、一番よい太鼓を譲ることにして、池作りを承知してもらった。

それから、奥山の池も、りっぱにできあがり、三ヶ村の田んぼに、十分と水を行き渡らせた。また、一方の江曾の村では、ことあるごとに、その大太鼓を打ちならして、村の役に立ったという。

(八田、国下、中挟 共通伝承 山下 郁雄 集録)

→